

第34回CASTICへの出場決定！

1 中国青少年科学技術イノベーションコンテスト（CASTIC）とは

中国青少年科学技術イノベーションコンテスト（CASTIC）は、JSTと理数教育次世代研究者の育成において協力関係にある中国科学協会（CAST）が主催するコンテストで、今年で34回目を迎えます。年々参加国が増え、現時点で52カ国の参加が決まっているようです。国分高校は、昨年度SSH生徒研究発表会で文部科学大臣賞を実績から、日本代表として出場することになったものです。日本代表として恥ずかしくない、立派な成績を上げて欲しいです。



2 世界に羽ばたく国分高校生

世界大会への出場は、一昨年度のISEFロサンゼルス大会以来のことですが、本年度は、第4回高校生国際シンポジウムで参加資格を得た「グローバルリンク シンガポール」への生徒1名の参加予定や、前号で紹介したマレーシアでの国際サイエンス研修もあり、本校SSHのスローガンである「霧島から世界へ」という目標が、具体的な成果としてあらわれ始めました。今後さらに多くの生徒が世界に目を向け、日本の明日を支える人材となることを期待しています。



昨年度CASTIC開会式の様子



アドバイス講座観光班



アドバイス講座地学班



アドバイス講座Ⅰ



4月23日（火）、1年生グローバルサイエンスの時間に、3年理数科及び2年普通科代表の発表・プレゼンテーションを通して、課題研究や発表方法についてのイメージを形成する目的で、アドバイス講座Ⅰを行いました。発表者は、3年理数科地学班と、2年普通科観光班でした。この講座の具体的な狙いとして、

- ① 先輩の課題研究テーマを参考に、自信の研究する分野・テーマを考える契機とする。
- ② 課題研究に関する情報収集方法を知る。
- ③ SSH事業に対する年度当初の気持ちを自覚する。
- ④ 課題研究と上級学校進学とのつながりを知る。



などがありました。当日、一年生は皆真剣に先輩の発表を聞き、熱心にメモを取っている生徒もいました。先輩が培ってきた知識や技術が、後輩に確実に受け継がれていくことを願います。なお、昨年度の反省点として、SSH活動による生徒の変容を評価するシステムが確立されていなかった点がありました。そこで、本年度からは活動のたびにアンケートを実施することにしました。年度末に、データとして明らかな成果があらわれることを期待しています。

